

## 第70回運輸政策セミナー オンライン開催のご案内

拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

このたび運輸総合研究所におきましては、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、「運輸政策セミナー」をオンラインにて開催することとなりました。

つきましては、ご関心をお持ちの皆様におかれましては、ご参加を賜りますようご案内申し上げます。また、ご関心をお持ちの方々に広くご周知頂ければ幸いです。

ご参加に当たりましては、大変恐縮ですが、申込み専用 URL からお申込み頂きますようお願い申し上げます。

敬具

記

### ○第70回運輸政策セミナー（オンライン配信）

日 時：2021年4月8日（木）15：00～17：30

会 場：オンライン（Zoom ウェビナー）

テ ー マ：自然災害に対応する計画運休の意義と課題：利用者の理解に向けて

#### 1. 講演

講 師：奥村 誠 東北大学災害科学国際研究所/大学院工学研究科教授  
内田 俊一 東日本旅客鉄道株式会社鉄道事業本部サービス品質改革部次長  
小林 立樹 東武鉄道株式会社鉄道事業本部運輸部運転計画課課長  
山口 裕通 金沢大学理工研究域地球社会基盤学系助教

#### 2. パネルディスカッションおよび質疑応答

コーディネータ：奥村 誠 東北大学災害科学国際研究所/大学院工学研究科教授  
パネリスト：金子雄一郎 日本大学理工学部土木工学科教授  
各講演者

#### 3. 全体講評

山内 弘隆 運輸総合研究所所長

参加費：無料

お申込み：下記の URL よりお申し込みください

<https://krs.bz/jterc/m/semi70>

（申込期限：4月6日（火）まで）

※お申し込み頂いた方には、4月7日（水）午後に視聴用 URL をご送付いたします。



運輸総合研究所は日本財団の助成を受けて活動を行っております。

Supported by  日本 THE NIPPON 財団 FOUNDATION

お問い合わせ：一般財団法人運輸総合研究所 企画部（担当：新倉、安田）  
〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-18-19（UD 神谷町ビル）  
TEL：03-5470-8415 FAX：03-5470-8419  
E-mail：collo@jttri.or.jp HP：<https://www.jttri.or.jp/>

## セミナー概要：自然災害に対応する計画運休の意義と課題：利用者の理解に向けて

近年猛威が意識される自然災害について、鉄道等公共交通事業者は、気象情報等を基に早期に運休等を計画することが考えられる一方で、利用者へのサービス提供を中断しないようなるべく運行継続を図るというジレンマに直面しがちである。一方、その円滑な実施に際しては、利用者側から計画運休の意義についての理解を得ることが大事であるとともに、利用者の行動には、実施時期、駅の滞留状況、運転再開等の情報提供や勤務先企業からの指示が影響を与え、その最適な行動選択を可能にするための情報提供も大事である。

このため、公共交通事業者と利用者の両方の視点で、首都圏等の鉄道を例に、議論を行い、今後必要とされるデータや分析の課題についての示唆を試みる。

### ●講演：鉄道事業者の被害軽減のための計画運休

講師：奥村 誠 東北大学災害科学国際研究所/大学院工学研究科教授

(概要)

日本の鉄道事業者は過去の自然災害により大きな被害を繰り返し受けてきた。本発表では、ある程度の予測が可能な台風や集中豪雨被害を念頭に、早めの計画運休措置が車両の退避による被害の軽減に効果的であることを述べ、計画運休への利用者の理解を得るための適切な情報提供の重要性を述べる。関連して、計画運休に対する利用者の対応行動の研究が必要であることを指摘して、今回のセミナーにおける各発表の位置付けを解説する。



(経歴)

1984年京都大学工学部交通土木工学科卒業、1986年同大学大学院工学研究科修士課程修了、1987年京都大学工学部助手、1991年京都大学博士（工学）、1995年広島大学工学部助教授、2006年東北大学東北アジア研究センター教授、同大学大学院工学研究科併任、2012年同大学災害科学国際研究所設立にあたり転任。

この間、JICAブラジル大学都市交通センター技術プロジェクト、ボリビア熱帯氷河 SATREPS プロジェクト、総合地球環境学研究所シベリアプロジェクトに参画。専門は土木計画学、都市間交通計画。1991年土木学会論文奨励賞、2014年日本都市計画学会論文賞、2017年土木計画学優秀論文賞（2件）、2019年同賞受賞。著作として、「土木計画学」コロナ社（2014）、「東日本大震災合同調査報告・土木編7 社会経済的影響の分析」編著、土木学会（2019）、「途絶する交通、孤立する地域」編著、東北大学出版会（2013）など。日本都市計画学会理事、東北支部長。2020年度より「運輸政策研究」編集委員長。

### ●講演：JR東日本の「計画運休」の取組みについて

講師：内田 俊一 東日本旅客鉄道株式会社鉄道事業本部サービス品質改革部次長

(概要)

JR東日本では、これまでの計画運休での知見も踏まえ、公表の仕方、運転再開見込み時間の判断とその表現等について、社内で基本方針を策定した。また、一昨年の台風19号での被害を受け、鉄道施設等の浸水対策について検討を進めている。昨年の台風接近時は、策定した基本方針に則って対応したが、予報の好転に伴い、発表していた運休を実施当日に取り止めたケースもあった。世の中への影響を鑑み早めの判断・周知が求められる中で、予報変更に伴う対応・案内は引き続きの課題である。



(経歴)

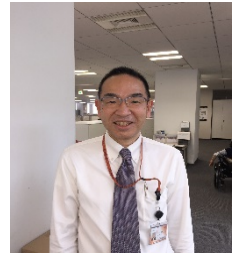
- 1971年生まれ、山形県山形市出身
- 1994年 東京大学工学部卒業
- 1996年 東京大学工学系研究科修士課程修了(航空宇宙工学)
- 1996年 東日本旅客鉄道株式会社入社
- 2011年 東京支社 運輸車両部東京総合指令室担当課長
- 2012年 八王子支社 運輸部輸送課長
- 2015年 東京支社 総務部広報課長、2018年より現職

●講演：東武鉄道の計画運休について

講師：小林 立樹 東武鉄道株式会社鉄道事業本部運輸部運転計画課課長

(概要)

運転規制値を超える暴風雨ではない限り、列車運行を継続することが鉄道会社の使命として捉えてきた。しかしながら、大型台風接近時の列車運行継続によって、結果として駅間停車、運休や大幅な遅延などお客様にご迷惑をおかけしてしまった経験から、2019年当社では初めて計画運休を実施した。計画運休の対応と改善してきた経過をご説明するほか、今後リスクとなる沿線大型河川氾濫時の課題と被害低減のための現在の当社の浸水対策計画をご紹介します。



(経歴)

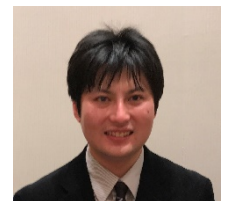
- 1991年4月1日 東武鉄道株式会社入社
- 2011年4月1日 安全推進部課長
- 2012年7月1日 営業部 審査課長
- 2015年7月1日 運輸部 運転計画課長
- 2019年4月1日 運輸部 運転指導課長
- 2020年9月1日 運輸部 運転計画課長 兼 運転指導課長、2021年4月より現職

●講演：携帯電話位置情報が示す災害時の人々の移動行動変容

講師：山口 裕通 金沢大学理工研究域地球社会基盤学系助教

(概要)

携帯電話位置情報を活用することで、膨大な人々の位置情報記録を、より時間的に細かい推移で把握することが可能である。つまり、このデータから、「自然災害時・計画運休時に、人々の行動がどのように変化したか？」をより時間的に詳細に明らかにできる。ここでは、複数の台風・地震などの時点のデータを用いて、計画運休の有・無、地震のそれぞれの行動変化を定量的に算出し、その比較を行った結果を紹介していく。



(経歴)

- 2016年 東北大学 工学研究科 土木工学専攻博士課程後期 修了
- 2017年-2018年 金沢大学 自然科学研究科 特任助教
- 2018年- 金沢大学 理工研究域 助教

交通計画学を専門分野として、主に統計モデル・機械学習手法による長距離旅行行動の解析・予測に関する研究テーマを実施。近年は携帯電話位置情報による人口分布データなど、大規模な記録データの解析手法の研究に取り組む。災害時の行動解析に関する研究としては、“山口裕通, 奥村誠, 金田穂高, 土生恭祐:「携帯電話 GPS 情報から分かる熊本地震による行動パターンの被災・回復過程」土木学会論文集 D3, Vol. 73, No. 5 pp. I\_105-I\_117, 2017” などがあり、この論文で2018年に土木計画学研究委員会優秀論文賞を受賞している。

木学会論文集 D3, Vol. 73, No. 5 pp. I\_105-I\_117, 2017” などがあり、この論文で2018年に土木計画学研究委員会優秀論文賞を受賞している。

## ● パネルディスカッション

パネリスト：金子雄一郎 日本大学理工学部土木工学科教授

パネルディスカッションでは東京圏において 2019 年 9 月と 10 月に実施された鉄道の計画運休を対象に、携帯電話の位置情報を基にした「モバイル空間統計」を用いて、駅周辺（500m メッシュ）における計画運休時と平常時の滞在人口の差異を時間帯ごとに分析し、滞留状況を推察する。特に運転再開に関する情報提供内容の違いや運転再開の遅れが、駅周辺の滞在人口の増減に及ぼす影響に着目して分析を行い、その結果を踏まえ運転再開時の情報提供に関して提言する



(経歴)

1996 年 日本大学理工学部卒業，2001 年 同大学院理工学研究科博士課程修了，博士（工学）取得

2001 年～2006 年 運輸政策研究機構，2006 年～現在 日本大学

2013 年 土木学会鉄道工学シンポジウム論文奨励賞受賞

改訂版 交通計画学（コロナ社 2021 年 共著），鉄道の百科事典（丸善出版 2012 年 共著）

社会活動：（行政機関等）国土交通省鉄道技術開発課題評価委員会委員（2016 年～），地下鉄 7 号線（埼

玉高速鉄道線）延伸協議会委員（2017～18 年），沖縄鉄軌道技術検討委員会委員（2015～18 年），鉄道

プロジェクトの評価手法マニュアル改訂に関する調査検討委員会委員（2011～12 年）ほか著書多数。

第 27 回鉄道技術・政策連合シンポジウム実行委員長（2020 年），計画・交通研究会理事・幹事長（2020

年～）ほかを務める。専門分野は交通計画，交通政策，社会基盤マネジメント。